

衣食足りて…

礼節を知る。という言葉を知らない者はいない。日本でも、タイでも『足るを知る』教育がされて来たものの、飽食・拝金の時代に入るや否や、礼儀も節度も急速に蔑ろにされて、結果、この言葉の対極にある『貧すれば鈍する』時代に転落して来た。貧乏のどん底に突き落とされれば、礼節処ではなくなり、思考も行動も鈍くなり、賢い人でも愚かになり、

心までもが貧しくなり、同時進行でバカなエリート達が馬脚を露わにして来てもいる。読者諸君は周知の通り、本誌(別称『ババボボーニュース』)で血祭りにあげている権力者・著名人の殆どが無礼者であり、節度をわきまえていないことが理解されよう。今回の学術会議任命拒否問題を、政局化しようとしているババボボー達は、この典型的事例でもある。

任命権を政権に委ね、任命されれば、それなりの名誉や利権が得られる『制度(システム)』であって、盲判(めくらばん)期待の推薦が通らなかったからと云って、文句を言う節操のなさは見苦しい限りでしかない。任命権と云う最高の人事権『生殺与奪の権』を委ねたら、殺されても(拒否されても)文句は言えないと云うのが筋であって、学問の自由とは全く関係がない。

政権の助言者足り得るか、足り得ないかを判断するのは政権側であって、推薦者側ではないという初歩的な制度も理解できない程度のバカなエリートがまかり通っている事が、今の日本をおかしくしている。(この事象をタイ語で云えば、ソンナンナー=ざまーみろ！だろう)



日本ばかりではない事も、米国の大統領選挙の進捗を見て明らかになって来た。米政権の行方は、代わったばかりの日本の政権にも多大な影響を及ぼすことは必至だから、真剣に注視して来た。ところが最終盤近くになって、ハンター・バイデンのスキャンダルが出てきた段階で、『オワ！(おわり)』ってしまった。囲碁で云えば、中押し投了だが、潔さを是としないザル碁の打ち手集団(バイデン陣営)は、終局まで打ち進み、アゲハマで埋め切ってもまだ余る醜態と共に、連座した連中までもしよっ引かれる米史上最大級のスキャンダルになるだろう。

ボケ捲った臭老と、脇をガバガバにおっ広げたバカムスコが、中共のあらゆるトラップにまんまと嵌められた事実が発覚したという茶番劇で、大統領選挙ではなくなってしまった。それでも蛙の面にシヨンベンで、恥部を晒しながらイケシャシャーと選挙戦を続けざるを得なくなっていた。これから、ゾロゾロ出てくるゴシップには興味がないから、「勝手にやって！」スタンスで見に行く。日本のマスコミで報じられなかった関連の動画をご覧ください。(どこの誰に忤度しているのか)

- <https://www.youtube.com/watch?v=7jZY2jhFk5w> H/バイデンの脇の甘さ-1
- <https://www.youtube.com/watch?v=nzQgRi-Jb3l> H/バイデンの脇の甘さ-2
- <https://www.youtube.com/watch?v=gTZRYoBHZB8> ハニトラ・マネトラ世界のVIPを汚職に引き込む中共
- <https://www.youtube.com/watch?v=WzOtXFcbJE8> 大紀元インタビュー
- <https://www.youtube.com/watch?v=BH6MpQAvPfq> スティーブバノン インタビュー

コロナ禍にあって行われた大統領選挙(事前投票・郵便投票・当日直接投票)の結果、すんなりトランプ大統領が選挙人の過半数を取って当選を決めれば、バイデン側が何を言おうと文句なく当選。しかし、過半数を下回ってバイデン側の当選が発表される寸前に(不正の温床とされる)(郵便投票の検証という)異議申し立てがされて、米国内の分断は加速するだろう。何れにしても、最終結果はトランプ大統領の再選と云う事で、決着がつく事になると予測できた。

今号の発刊日を11月7日に遅らせたのは、米国大統領選の結果なり、状況をより正確に掴みたかったことに加え、大阪都構想の住民投票の結果がどうなるかを見極めたかった事にあります。どちらも、他国・他地域の選挙で、私が何を云おうと、何の影響もないでしょうが、関心は当事者意識で注目していました。(同様の関心を持っておられた方は以下の動画をご覧ください)

- <https://www.youtube.com/watch?v=D0-9AU4RdJ4> 大阪都構想反対決着
- <https://www.youtube.com/watch?v=uXbrwWKgiuc> 『大阪都構想』破綻とその未来



前回、反対を表明していた公明党が連携するという発表があって、可決されるのではないかと危惧していた。党利党略最優先で、市民国民を美辞麗句で騙し、ひいては国家の分断解体への道筋さえ付けかねないトンデモ住民投票だったからだ。前回同様僅差だったが否決されて安堵の胸を撫で下ろしたが、裏で糸を引いていた橋下徹は、直接的な責任を取らない立場に身を置いて、隙あれば政権に潜り込んで、政治ごっこ遊びの続きをやる気満々の素振りがミエミエだ。

重圧と云うストレスから解放されて、すっかり健康を回復した、なし崩し男は、三匹目のドジョウをすくう準備段階に入って来たようだ。安倍・橋下共演の八木節など見たくもない。

弱肉強食・是非論

食物連鎖は自然の理だから、弱肉強食も一面、自然の理であるとも云える。人間社会に当てはめて、これを是とすれば、民族差別・格差や、身体障害者・経済弱者は淘汰されて当然という、とんでもない論理に発展しかねないが、現実の世界を鳥瞰・俯瞰するまでもなく、差別・格差・支配者・被害者は後を絶たないし、強欲な人間社会においてなくなる事はない。

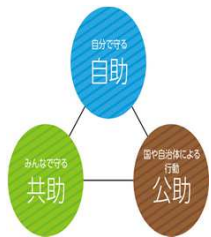
人は誰でも好き嫌いがあって当然で、好きなタイプ・嫌いなタイプに分別して、端から毛嫌いな人がいても仕方ない事です。これは、自己防衛本能のなせる業かも知れません。本誌に何度か登場して来た3人で、私が徹底的に嫌いなタイプの人物は、(オウム真理教教祖の松本智津夫・大阪維新の会の橋下徹・ホリエモンこと堀江貴文)だ。これ等はごっこ遊びで大衆を惑わす輩達だからだ。宗教ごっこ・政治ごっこ・ビジネスごっこで、虚実は語っても、語りに真実の欠片もない。この類の人間は、他にも掃いて捨てるほど居るだろうが、ディベートを得意とする雄弁な言葉の中の虚実を見極める真贋力・批判力を、普段より養っておくことも自己防衛に役立つ。



何故ならば、無事で無力な一般大衆である我々は、強権・強弁・強暴に晒されては一溜りもなく潰されたり騙されてしまうが日本国内に於いては、いくら批判しても言論の自由は守られている。

一旦できてしまった法律は中々改正・改定し難いものだろうが、内政無頓着・なし崩し政権下で作られた悪法(ヘイトスピーチ禁止法などは、『国民のため』にならないばかりか、『将来の国民のため』にもならない。廃止してはならない種子法等をどさくさ紛れに廃止したものは、復活させなければならない。菅新政権発足時の所信表明演説の中に『自助・共助・公助』というのがあった。国民個々に対するメッセージなら、ブーメラン返しで政治家は『自国民援助・親日国共同援助・国際援助』を実践しなければ、お題目を唱えただけで意味を持たないと受け止めている。まずは、デフレとコロナ不況で苦しんでいる自国民を援助する手立てと、スピードに注目しよう。

大小に関わりなく、国家の目指すものは富国強兵であり、国民に豊かさや安全・安心を提供できなければ政治家たる資格はない。国民の委託を受け、代弁者として代議士になっているのだから行政官僚の思惑に追随して、国民の富と機会を奪っては国民は付いて来ない。



富国強兵

菅首相は『国民のための政治』を表看板に掲げながら、国家予算を自己の運営する私企業に垂れ流して憚らない政商や国賊を側近に置いている事が懸念される。切った張ったの人事を得意とする人だと云う事だから、これらは、何れ切られることを期待しているが、いつかが問題だし、腐れ縁で切り切れなければ、諸共に終わりだ。菅首相とは、私と同年齢(悪名高い団塊の世代)でもあり、下戸でもあるとの事などから、同輩の感覚では々々非々の立場から注視し続けていく。

『看板に偽りあり』だったら、『日本を取り戻す』看板を、『取り返しのつかない日本を推進する』看板に架け替えた前政権を徹底的に批判したように、もしくはそれ以上に批判し、追及していく。(前号に掲載できなかった動画に加え、国賊・政商/竹中平蔵を紹介する動画をご覧ください)

- <https://www.youtube.com/watch?v=7k3awZjwq2A>
- <https://www.youtube.com/watch?v=latp15sf-LE>
- https://www.youtube.com/watch?v=Qf_a8sEpr4w

- デービット・アトキンソンの正体-2
- 竹中平蔵の正体-1
- 竹中平蔵の正体-2



ブーテンさん、日本に来て、ロシアでやったように、日本のガハールどもを購殺してください。

前章に結論付けた米国大統領選は、全世界が注目する中実施されたが、あろう事か、禁じ手を打ってでも勝たなければ生き残れないと考えた小心者の犯罪者は、神聖な投票を踏みにじり、隠蔽・廃棄・偽造などの手段を使ったようだ。(当初から言われていた郵便投票は不正の温床)

第一ラウンドが中断されたまま、投票の確認作業から状況によっては司法の場に持ち込まれるだろう。例えて云えば、仁王(トランプとペンス組)Vsサタン(バイデンとオバマ組)の戦いで、60日一本勝負だ。この結果、仁王が勝てば留飲は下がるが、サタンが勝てば世界に災いをもたらす。

<https://www.youtube.com/watch?v=yDmZdpallPQ> 暗雲垂れ込める大統領選

選挙違反にとどまらず、国家反逆罪(外患誘致)他で終身刑以上は確定になるだろう。
<https://www.youtube.com/watch?v=p0KuV7p5RAw> ハンターはまだ40歳なのに なぜ自分の歯が全部無いのか?

同じような事が日本でも起きている。愛知県知事(大村秀章)リコール運動がそれだ。周知の通り反日日本人によるガラクタ展(愛知トリエンナーレ)を芸術と称し、公費を反日活動家に振る舞った事に対する抗議運動だ。これも、愛知県民以外は投票する権利はないが、支援・応援は全国から寄せられて、リコール成立に足る署名を獲得したようだ。が、地域の選挙管理委員会によっては対応がマチマチで、難癖まがいのいちゃもんを付けて、受け取り拒否をしているとの情報もある。県知事のリコールは法はあっても事例はない。高須克也先生の命がけの運動に敬意を表します。

<https://www.youtube.com/watch?v=5hPDna3CT9k> 署名簿を提出



別称: 日本のテドロス

薬九層倍？

新型コロナウイルスは、COVID-19と命名され、武漢ウイルスと云われ、米国では中国ウイルスとまで限定されている。変異したウイルスが、二次感染・三次感染を拡大している中、世界各国が、新薬/ワクチン開発にしのぎを削っている。新薬の開発には莫大な費用が掛かると云われていて、製造原価の9倍にしても採算が取れない程だとも云われている。



日本では、毎日発表されている新規感染者数は、200人前後で収束の気配は全く見せていない。欧米の感染者数は更に桁違いで拡大の一途を辿っていて、ウイルスの変異も併せて、決定打となるワクチンが出来るのかさえ疑問視せざるを得ない。

当初、4月末までの緊急事態宣言を、毎月延長しながら11月末まで延長を引き延ばしつつ、極力日常生活に支障をきたさない緩和策を打ち出しているタイでは、新規感染者は外国から入って来た人くらいで、国内での拡大は抑え込んでいるようだ。

私は、当初から『たかが風邪・されど風邪』と高をくくった思いでいて、多少の用心はしつつも、特に恐れてはいなかった。勿論、無症状保菌者の増加を辿っている(バッチイ)日本に一時帰国する気は当面ない。恐らく、帰国当日には感染し、その後数日すれば症状が現れ、重篤化する可能性は極めて高いだろうと予測している。感染拡大のない、チェンマイに居る事が安心安全の確保につながっていると思っている。

それよりも、私の命を狙っているのが、Pm2.5の後遺障害だ。今回つくづくと思うか、新たな発見として思い知らされたのが、既往症に及ぼすストレスの影響だった。体力・気力共に充実していた現職時代は、『ストレスをパワーに変える』などと豪語しつつ、仕事を趣味化してストレスを発散して来た。体質的に、アルコールアレルギーでもあるから、酒を飲んでもストレス解消にならない。ストレス解消の方法はいくらでもある中から、リラクゼーションが効果的であることは周知の事実で、専らギリギリに締め付けた頭のねじを一本抜いて、リラクゼーションに関心を向ける術を体得した。

先月号第三章に記載した、ハーブサウナ寺のハーブ効果が絶大だった事から、メーホンソン慰霊と温泉の小旅行の最初の訪問地は、メーテンにあるワット・トウングルアンだった。処が！



舗装工事中！



救急車で…

あろう事か、寺院に向かう道路が舗装工事中で通行止めになっていた。数日前より痰の絡みが増し、喉の調子がおかしく、期待大ただけに急激なストレスに襲われた。(精神的ストレス)仕方なく、パーイ経由でメーホンソンに向かったが、パーイの名所パーイキャニオンの見学は、同行の3人に行ってもらい私は車の中で休んでいた。6時間にわたる山岳ドライブで疲れ切った様子を見て、現地旅行社をやっている益田さんは、ホテルに着くなりバスタブにお湯をため「疲労回復に風呂に入ったらい」と勧めてくれたものの「私は後で入るから益田さんが先に入って」と云ったが、「私の後は水みたいで、熱め好きの本多さんが先に入って…」のやり取りの後私が先に入る事になった。手で湯加減を計ったものの、チョッと熱すぎた。足を入れ、腰まで浸かった瞬間急激に血圧が上がり数秒で息苦しさを覚え呼吸困難に陥った。(生理的/肉体的ストレス)

様子を察知した同行者は、ホテルに救急車の手配を依頼し、数分後には、近くのシーサンワン病院のICUに緊急入院する事になった。ICUだから、面会謝絶・24時間看護師が見ていて同じ様な患者が6人いたが、こんな山奥の病院でも、医師と看護師のレベルが高い事に感心した。



酸素吸入器装着 薬草吸入器装着 簡易酸素吸入

明け方近くの夢うつつの中で、死線をウロウロ彷徨っていた。追い返されたのか、逃げ切ったのか分からないが夜明けを迎えて現在に至っている。目に見える周りの人たちの力と、見えない力によって救われた感が強い。又しても命拾いをして、人々・先霊に助けられた思いだ。『未だやり残している大切なことがあるだろう！』と、問いかけていると勝手に受け止めて、今回お世話になった全ての人や、まだ見ぬ人のためにやらねばならない事を考えたら、七人の侍プロジェクトに並行してやるべき事が沸々と湧き上がって来た。(新年号120号に特集)

看護婦長が手にしている布製のポーチに、山の景色と『ゆふいん』というプリントを見て、彼女に「湯布院？」と尋ねてみると、嬉しそうに「去年日本に初めて行った場所が九州の湯布院でした。とっても良かったから、また行きたいと思っています。ただしコロナが収まったらね」「あなたは、どちらから？」「横浜…東京の近く」「日本は素晴らしいから、あちこち行きたいです」等の話をして、日本ファンがこんな山奥にも居たことがうれしかった。婦長から「この病院は(費用が)高くないから、1週間くらい療養したらいい」と勧められたものの、他の患者の去痰吸引機の音が気になって5日で退院し、家の近くの病院に転院、3日通院し、今では治癒状態に戻りました。



湯布院はメーホンソン!!

<https://www.youtube.com/watch?v=V9Xb97yU3IU>

精神力と免疫力との間

ブランチ&ディナー + ハニートラップ！

チェンマイに移住して、10年余り(13年)になんなんとしているが、それなりの紆余曲折はあったものの、豊かさの実感と実体験は、経済的なものに限らず、十分享受して来た。精神的・身体的豊かさは、個々の感受性・健康状態による差異があるだろうから、誰でもが一樣に実感されるとは限らないだろうが、高齢期を迎えた人にとっては最適な環境だ。

敢えて贅沢なことを云えば、春秋は日本で過ごし、夏冬はチェンマイで過ごせれば、この上ない。その間、正月やお盆などに一時帰国したければ、それもできる経済的・身体的余裕があれば正に贅沢の極みでしかない。(そんな夢物語を描いても、現実を直視すればそれどころではない)と、諦めた段階で話は終わってしまう。夢も希望もない人生(老後)を送って、過去の栄光と墓場まで持って行かなければならない秘密を抱いて逝ったのね～。では本当に寂し(貧し)すぎる。

健康だけが取り柄で、医者いらずで過ごして来た70余年も、ここ(立)て続けに2度の入院。各種傷病と闘い続けている人たち(患者と医療スタッフ)の実態を垣間見る良い機会でもあった。一旦治癒しても、完治した訳ではないから、又いつ再発するか分からない。不安を先行させて、消極的行動をとっていたのでは、夢も希望もしぼんでしまう。身体がついて行かなければ、杖でも車椅子でも手を使って動き、休み休みでもハーハー・ゼイゼイ云いながらも、極力自力を使って無理をせずに動くことだ。ボケかけた頭を活性化させるためにも、栄養補給(RJ)をお忘れなく。



ハーブサウナ寺入口



ハーブサウナ寺入口

私の場合、呼吸器系疾患だから、消化器系に問題はなく食欲がある分だけ体力の回復が早い。とは云え、規則正しい三度々々の食事が正しいとは思っていない。高齢者はブランチ&ディナーが丁度良いように思う。空腹感を覚えたら食べるのが最適だと思っていますが、朝食を取らなければ、頭も体も目覚めないという方は、しっかりとお食べ下さい。

食習慣・食事の時間間隔を変えてみると云うのも一手です。これも、ご自分の体の具合との相談ですが、試して見る価値はあるでしょう。うまく切り替えられれば、一手両得と云う付加価値が付て来るでしょう。(以下の動画をご覧ください。両得の付加価値が何であるかが分かります)

<https://www.youtube.com/watch?v=5KUqKG5-t5g> 「空腹こそ最強のクスリ」

概ね誰でもが、既成概念に囚われていますが、常々既成概念を疑って掛っていますから、この動画にも納得しています。…と、云うわけで通院3日の終了日の翌日には、行きそびれたハーブサウナ寺に行き、思う存分ハーブ蒸気を吸い込んで来ました。(快適！快調！すっきり、爽やか)その一週間後にも再訪し、その間にも天然温泉にも通いました。(ウェルネスプログラムの実践)

こんな日常を取り戻すことが如何に幸せで、贅沢なものであるか感謝に耐えません。見える景色は、50~60年前見て育った子供のころの田舎の景色。何の変哲もない風光明媚でもない、唯の田舎の風景を見つめながら、ゆったりと流れる時間の中に身を置いて、幸せと贅沢を感じる。この満喫感に共感・共有できる人が『足るを知る人』でもあると思う。デフレ経済とコロナ禍の環境下において、必死に今の生活を支えなければならない世代の方々には、「足るを知る処ではない…」と、苦言を呈されそうですが、今の苦境を乗り越える提案を次々号、2021年新年号(120号)に特集を組みたいと思っています。おかげさまで、現時点ではすっかり、元気を取り戻し、以前同様老人暴走族に復帰し、バイクや車で走り回っています。



ハーブサウナ室



今は、予約制です



ハーブサウナ寺山門の像

天日干されているハーブ

販売されているハーブ類

病人に向かって「今日は少しお元気そうですね」位は云っても「健康ですか？」なんて問いかける人はいない。健康でない状態が病気だから、コロナウイルスの無症状保菌者も感染者として病気持ちと云う事になるし、殆どの高齢者は何らかの病気持ちであるとみていいだろう。生き物の宿命でもあるから、対処療法を身に付け、適切な医療を受け、元気だけは保たなければ生き甲斐まで失う。(以下の動画をご覧ください)

<https://www.youtube.com/watch?v=L1RZmaEuxgl> 免疫力を上げる
<https://www.youtube.com/watch?v=40c2828z30Q> 抗生剤や咳止めより効果的な食べ物
https://www.youtube.com/watch?v=B4QXP2IWZO8&list=PLnBD8_vdLQUw_VIJM6Ffdq6kH3zID9 ウイルスと予言

